

くのへ

日和 Vol.3

2025.5

～九戸村地域おこし協力隊こしま通信～



ミツバチ、元気です むらむら日記& 九戸自然さんぽ



↑タライにコケと石と贅沢にも七戸産業の木炭を使用した、自作のハチ専用飲水場。ハチ達に人気です。

春の陽ざしがあたたかくなり、里山にも本格的な花のにぎわいが戻ってきました。風が強く、寒い日も続きましたが、ミツバチは元気に飛び始めています。

5月にはウワミズザクラやキリ、フジなど、花が次々と咲き、ミツバチたちはせつせと花から花へと飛びまわっています。

巣箱の中でも、女王バチの産卵数も増え、働きバチたちも育児や掃除に大忙しです。日に日に巣の中のにぎわいが増しているのが感じられます。

巣箱のそばに立っていると、ミツバチたちの羽音や、花粉団子を持ち帰る様子がわかり、一生懸命な姿に癒されます。

これからいよいよ採蜜の季節を迎えます。自然の恵みと、ミツバチたちの働きに感謝しながら、今年はどうなハチミツが採れるかワクワクしています。

山にも里にも花や緑が目立ってきた季節。この季節のおたのしみといえば、「蜜源植物」探しや植物&昆虫観察です。

ミツバチたちが元気よく飛び回りはじめると、「あ、この花には来てるかな？」と、ついつい立ち止まってしまう。5月にはキリの花、ウワミズザクラ、フジなどさまざまな花が咲きほころびます。私の好きな場所でもあるコロポックルランドにはフジが咲いており、ハナバチやアブなどがたくさん訪花していました。また、草刈り中に見つけたお洒落なカメムシ。とても目を引く色をしていました。調べると「アカスジカメムシ」と言うそうです。

セリ科の植物でよく見られるようです。養蜂を始める前までは、なんとも思っていなかった植物や昆虫たちですが、養蜂を始めてからは植物や、昆虫、自然などにとっても興味関心を持つようになりました。図鑑や双眼鏡・ルーペ片手にこれからの観察を続けていきたいです。



↑ササの花。不吉なことが起きるとか起きないとか。



↑コロポックルランドのフジ。フジも立派な蜜源です。



↑蜜源のウワミズザクラ



↑おしゃれなカメムシ



↑蜜源のキリ。いい香りがしました。

じっくりした
はちみつレシポ

塗ってから焼く！
はちみつトースト

材料：食パン、好きなはちみつ

①はちみつを食パンの隅々まで塗る
②オーブントースターで焼く

はちみつがパンにしみこんで、
ジュワ〜と幸せ感じる美味しさ！

※ハチミツは1歳未満の乳児には与えないを
ください。

みつばちとハチミツの
**なるほど
Q&A**

Q. ミツバチは、どうしてはちみつを作るの？

A. ミツバチにとって、はちみつは「食べもの」なんです。春から夏にかけて花のみつを集めて、それを巣の中でじっくり水分をとばして作ります。秋や冬、外に出られない時期のために、はちみつをたくわえているのです。人間が食べるはちみつは、その一部をわけてもらっているというわけです。ありがたくださいませう。

養蜂用語辞典

・分蜂（ぶんぼう）…春になると、巣の中がミツバチでいっぱいになります。すると、女王バチのうち一匹とたくさん働きバチたちが「引越」することがあります。これを「分蜂」といって、新しい巣を作るためのミツバチの自然な行動です。

・王台（おうたい）…ミツバチが新しい女王バチを育てるために作る「特別な部屋（ゆりかご）」のこと。ふつうの育児部屋より大きく、たまご型。分蜂の前や、女王がいなくなったときに作られます。王台があると、群れの中でなにかが起きているサインかも。

九戸村地域おこし協力隊の活動がわかります！
更新頻度少なめですが…
**九戸村地域おこし
協力隊インスタグラム**

個人インスタグラム

SVLLAGE

HACHI_SNOHE

いろいろな
ハチミツ ひやっかみつ

今回は…**百花蜜**

複数の花々の蜜が混ざってできた蜂蜜。複雑な味わいがあり、蜜源の種類、土地の気候や風土、採蜜するタイミングごとに味が違ってくるので一番個性が出ます。

こじまの本棚より
今月の1冊

『生き物の死にざま』
稲垣 栄洋 著 / (草思社)

生き物たちがどうやってこの世を去るのか、ちょっとウルっとしてしまう一冊。ミツバチについても載っています。この本を読んでから、生き物を見る目が少し変わりました。

このコーナーでは、本は集めるのが好きだがほとんど読めていない、こじまの本棚から、ハチ・昆虫・自然などに関するオススメ本を紹介しします。